

パネルディスカッション1 企画概要

タイトル	看護の未来を語る～地域包括ケアに向けて～
------	----------------------

概要

超高齢化・多死社会を迎える 2025 年を目指して、地域包括ケアの推進が、日本のあちこちで叫ばれています。高齢者のみに対応するのではなく、障害者も子育て中の家族ケアも含んだ、あらゆる年代・世代に対して、この地域包括ケアは作動すべきであると考えます。

このことは日常生活圏域で「生活」しやすい街・地域を創ることに繋がっていきます。そして、これは、私たち在宅ケアの実践者にとって、その地域で、人生を終えられるところまでを支援する、aging in place を支援することでもあり、good end of life care を目指すことでもあると考えます。

勿論、ここには、医療と介護の一体的提供は欠かせません。

このような時流の中で「看護」に期待される場所は大きく、地域包括ケアの実現には看護の力が重要であり、より発展的に未来へ向けて、機能を拡大していった欲しいと言われています。

現在、全国各地の第1線で活躍する在宅ケアの看護職のエキスパートから、それぞれの取り組みを語っていただき、今後の看護の発展する方向についてディスカッションできればと考えて、このプログラムを企画しました。

それぞれの地域特性を活かしながら、看護師としての経験の「物語」の上に展開する、小児特化型訪問看護ステーション、療養通所介護、複合型、高齢者住宅との協働などを含みながら、これからの活動展開の夢を語っていただき、広い意味での地域包括ケアを担う看護の未来を展望できたらと期待しています。

多くの方に会場からも参加していただきたいと考えています。